令和6年度第2回平塚市文化振興懇話会会議録

【日 時】 令和6年10月29日（火）10:00～11:30

【会 場】 市役所本館 720会議室

【出席者】 構成員7名（敬称略） : 沖野成紀、丸島隆雄、平野恵美子、木村一彦、
岩崎由紀子、加藤宏、高橋孝祥
市職員4名（事務局） : 小峰市民部長、柴崎文化・交流課長、
武井文化振興担当長、荒原主管
傍聴人 : なし

会議次第

1 開会

2 市民部長あいさつ

3 参加者紹介

4 座長・副座長の選任

座長（平野氏）、副座長（丸島氏）が選任された。

傍聴人の確認

傍聴希望者がいなかったことを事務局から座長へ報告した。

5 議題

（1）平塚市の文化行政について

○事務局説明要旨

- ・資料（1）に基づき説明
- ・平塚市では市民部文化・交流課と教育委員会の社会教育部で役割分担をして文化行政に取り組んでいる。
- ・文化・交流課では、ひらしん平塚文化芸術ホールの管理運営のほか、文化情報誌の発行、平塚市文化振興基金の管理・活用、囲碁文化の振興や、まちづくり財団の文化事業への補助を行っている。

●文化情報誌たわわ

- ・平塚市にゆかりのある人・活動を、文化の観点から取り上げ、市民に紹介している。
また、工芸や文化財をはじめ、音楽、美術、アート、ダンスの他、ホストタウンであるリトアニア共和国や姉妹都市であるローレンス市の紹介も取り上げている。

●小学校アウトリーチ事業

- ・市内小学校に、プロの演奏家を派遣して、身近なところで音楽に触れてもらっている。
令和5年度は7校で7日間実施した。令和6年度は6校で実施予定である。

●平塚市文化振興基金

- ・市民文化の振興を図るために必要な長期的・安定的財源を確保するため、平成6年度に創設し、令和5年度までに441件、70,688,856円の寄付をいただいている。
- ・令和6年4月1日時点の基金残高は30,383,027円となっている。
- ・この基金は、小学校アウトリーチ事業、平塚市まちづくり財団と連携して実施する囲碁文化振興事業、文化振興補助事業等に活用している。

●囲碁のまちづくり

- ・平塚市にはかつて木谷實九段が開設した木谷道場があったことから、囲碁を本市の特色ある文化と位置づけ、平塚市まちづくり財団に委託し、年間を通して囲碁大会、囲碁教室等を開催し、囲碁文化の振興を図っている。令和5年度は「湘南ひらつか囲碁まつり」を1,000面打ち大会として開催できた。その他の事業についても、子ども囲碁大会や女流棋聖戦大盤解説会、各種囲碁教室など概ね予定どおり開催した。

●公益財団法人平塚市まちづくり財団の事業

- ・文化芸術の振興を図るため、平塚市まちづくり財団に補助金を交付し、財団が普及振興事業を実施している。

●ひらしん平塚文化芸術ホールの運営

- ・令和4年3月26日に開館し、令和4年度からは一般利用が開始され、多くの方に利用されるとともに、ホール主催の事業も多数開催し、市内外から多くの方が参加され、文化芸術の新たな拠点として様々な文化芸術の鑑賞・体験・発表の場として活用され、周辺の賑わいを創出している。詳細については次の議題で報告する。

○質問・意見等

構成員：文化振興基金について、文化振興補助事業への活用とは具体的にどの事業に活用しているのか。

事務局：まちづくり財団が実施する文化振興事業に対して市が補助金を交付している。その財源として文化振興基金からは100万円を充当している。

構成員：今年度の湘南ひらつか囲碁まつりでは、関連イベントとして湘南平塚画廊で、日本棋院の囲碁アート展示が開催された。囲碁まつり当日を含んで数日開催されたが、囲碁まつりの日以外は集客があまり伸びなかったと聞いている。今後も続けていきたいということも聞いているが、集客に向けた広報が課題である。

事務局：囲碁を巡るアート展として、プロ棋士の岡田結美子棋士が主催していて、日本棋院が後援しているイベントである。事前に開催について協力の打診があり、囲碁まつりのチラシにも掲載をしてPRをしたが、当日以外の集客にはつながらなかった。

構成員：チラシには開催期間や開催場所も掲載していたか。

事務局：開催期間、開催場所も掲載していた。集客に向けて何が協力できるかまちづくり財団とも検討していきたい。

構成員：囲碁まつりのチラシに掲載するだけでなく、囲碁を巡るアート展のチラシを作ってもらえれば、囲碁教室などの場で配布するなど協力できる。

座長：平塚は囲碁のまちとして有名である。囲碁まつりも毎年多くの方が、遠くからも参加頂いているが、今年度の参加はどうだったか。

事務局：今年度も北は北海道から、南は九州まで全国からご参加いただいた。7歳から90代までの幅広い年齢の方が参加し、1,000面打ち大会は800人以上の当日参加があった。また、井山裕太王座や上野梨沙女流棋聖といったタイトルホルダーの棋士も参加して開催した日本棋院100周年の記念イベントや、木谷實九段没後50年を記念して、お孫さんである小林泉美七段が自作された木谷實九段を紹介する紙芝居や、木谷門下のお弟子さん達による道場での思い出話を語る座談会などのイベントも開催し、晴天にも恵まれたこともあり、昨年度より多くの来場者で賑わった。

構成員：久しぶりの晴天で、テントを張らずに実施できたので、参加者に気持ちよく囲碁を打ってもらうことができた。

座長：以前は木谷美春さんのおはぎを配っていたが、今はどうか。

事務局：現在はおはぎを用意することができなくなり、お渡ししていないが、会場内に本市の名産品販売コーナーを設けて、囲碁最中や囲碁のまちひらつかといった囲碁関連の和菓子などを販売している。

座長：これまでの意見をまとめる

- ①文化振興基金の活用について確認があった。
- ②囲碁を巡るアート展の集客方法について意見があった。
- ③囲碁まつりの参加者数について確認があった。

(2) ひらしん平塚文化芸術ホールの運営状況について

○事務局説明要旨

- ・資料(2)に基づき説明。
- 令和5年度・6年度の利用状況
 - ・令和5年度の実績として、貸出施設の利用者数は累計で140,013人であった。
 - ・令和6年度は9月までの実績で、累計で73,467人であった。
 - ・令和5年度の各施設の利用率は、大ホールは64.2%、多目的ホールは65.3%、全施設平均では57.8%となっている。
 - ・令和6年度9月末時点の利用率は、全体で60.5%となっている。
- 令和5年度実施事業について
 - ・指定管理者が実施する事業には、市の指定管理料を充てて実施する主催事業と、指定管理者の自主企画としてチケット収入の責任を負う自主事業の2種類がある。
 - ・主催事業は年間16,896人の参加があり、自主事業は6,093人の参加があった。

○質問・意見等

座長：色々な方が利用していただき、素晴らしいホールができて良かったねと声をかけてもらうことがある、

事務局：会議室などの諸室については、利用者からの声を反映し、これまで3日前までに

予約が必要だったが、当日でも予約できるようにした。小練習室などは利用率が顕著に伸びてきている。和室などの利用率が低い部屋も利用を増やしていきたい。オープンスペースも含めて利用しやすい施設を目指して工夫を続けたい。

構成員：多目的ホールも当日とは言わないが、前日などで空いていれば予約できるようにならないか。

事務局：大ホールや多目的ホールは舞台備品や照明、音響など舞台専門スタッフが必要なため、事前の打ち合わせや舞台スタッフのシフト調整があるため、20日前までの予約となっている。ご意見としては承る。

座長：和室が無い家が増えているので、和室を子ども達が畳の感触を体験できる部屋として活用できるのでPRを。お茶会は開催しているのか。

事務局：本格的なお茶会となると、お客さんの動線が十分に確保できないという課題もある。練習利用や簡易なお茶会での利用はある。

構成員：10月に中学校音楽会で利用させてもらった。主催者側として関わったが、ホールスタッフの方は対応がとても親切だった。楽器運搬のトラックが遅れるトラブルがあったが、スタッフの方の適切な対応もあり、本番に影響がなく無事に開催ができ、感謝している。

事務局：指定管理者にも伝えたい。

構成員：ホール楽屋のトイレは数が少ないので、オーケストラなどの大人数の出演者の利用の場合トイレが足りなくなってしまう。増やすことはできないか。

事務局：設備の追加は難しいが、運用で対応できるような検討をしたい。

構成員：和室の利用が少ないようだが、和室に椅子はあるのか。葬儀会場などでは、和室に椅子を置いているところが出てきている。直接床に座るのがつらい人でも利用しやすいということだった。

事務局：和室には座椅子と座布団が設置されている。椅子の用意はしていないが今後研究していきたい。

座長：これまでの意見をまとめる

- ①素晴らしいホールができたという声を聞くという意見があった。
- ②多目的ホールの直前予約について意見があった。
- ③和室の活用や、備品の整備について意見があった。
- ④楽屋トイレの増設について意見があった。
- ⑤ホールスタッフの対応が良かったと意見があった。

(3) 平塚市文化芸術振興計画の進捗状況について

・資料(3)、(4)に基づき説明。

●令和5年度事業の進捗状況

- ・計画掲載事業について、令和5年度の実績、課題と成果を記載した。
- ・傾向として、令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、令和4年度に中止又は一部中止した事業も予定通り実施できていた。

- ・ 11月にはリトアニア共和国カウナス市と姉妹都市提携が行われた。
- ・ 情報発信を課題にあげた事業が4事業、メンバーの高齢化や後継者不足を課題にあげた事業が4事業あった。
- 令和6年度事業の進捗状況
 - ・ 令和6年度の計画を記載した。

○質問・意見等

- 構成員：NO.43の青少年国際交流事業にある、ヒコーキ雲の会とはどんな団体か。
- 事務局：姉妹都市のローレンス市の中高生派遣経験者が参加している会で、ローレンス市から訪問する学生の対応やローレンス市との交流に参加している。
- 構成員：NO.4のジャズフェスティバルについて、現在はホールのみで実施しているが、ジャズの成り立ちなどを考えると街中で実施する方が盛り上がるのではないか。横浜ジャズフェスティバルでは、プロ演奏はホールだが、街中でアマチュアなどのジャズバンドが演奏して盛り上がっている。
- 構成員：実態としては、ジャズだけでなく軽音楽のジャンルの演奏もある。街中で実施するのは盛り上がると思う。
- 事務局：市が補助するまちづくり財団の事業なので、財団とも検討したい。
- 構成員：財団としては、予算や人員などの課題もあるが検討する。囲碁まつりでは、棋士の入場時や休憩時間などにディキシランドジャズバンドの演奏があり、イベントを盛り上げてもらっている。
- 構成員：よさこい祭りが計画に記載がないが市の主催ではないのか。
- 事務局：よさこい祭りは民間団体主催のイベントであるため計画には掲載がない。
- 構成員：庁内検討組織でも進捗管理をすることになっているが、部局間の横の連携についてはどう議論しているか。例えば先ほどの囲碁を巡るアート展の話でも、囲碁ファンへのPRだけでなく、アートの視点でPRするなら美術館や教育委員会との協力もあってよいと思う。
- また、NO.10の湘南平魅力アップ事業にも関連するが、湘南平では登山家の岡野金次郎の碑前祭を始めて平塚で開催した。このイベントは湘南平を所管するみどり公園・水辺課ではなく社会教育課が担当している。
- 色々な分野で所管だけでなく横の連携を進めてほしい。
- 事務局：庁内検討組織では、25以上の課が集まり、課題の共有などを行っている。その中で共通の課題について解決策を共有するなど行っている。横の連携についても今後テーマとしていきたい。
- 座長：NO.9海岸エリア魅力アップチャレンジに関連して、龍城ヶ丘の整備の関係もあり、ハマヒルガオの植栽ができていない。今は整備内容も決まったと思うが、ハマヒルガオの植栽を進めたい。
- 事務局：所管課にご意見を伝えて確認する。
- 座長：これまでの意見をまとめる
- ①ヒコーキ雲の会に関する確認があった。
 - ②ジャズフェスティバルを街中で開催してはどうかという意見があった。

③庁内の横の連携促進について意見があった。

④海岸へのハマヒルガオ植栽の再開について意見があった。

座長　：以上で議事を終了する。

6　事務連絡

7　閉会